

12月 定例教育委員会会議録

1	日 時	令和元年12月20日(金) 午後4時10分から午後4時52分まで
2	会 場	磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室
3	出席者	村松啓至教育長 鈴木好美委員、青島美子委員、杉本憲司委員
4	出席職員	市川 暁教育部長、菌田欣也教育総務課長、川倉彰裕学府一体校推進室長、加藤計吾児童青少年政策室長、木野吉文学学校給食課長、小澤一則学校教育課長、鈴木法之中央図書館管理グループ長、高梨恭孝文化財課長、磯部公明地域づくり応援課長、鈴木都実世幼稚園保育園課長

傍 聴 人 0人

(進行委員：杉本憲司委員)

1 開会

2 教育長あいさつ・教育長報告

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、御参集いただきありがとうございます。

今週の月曜日にアナフィラキシー症状が発症したことを受け、ドクターヘリと救急車を要請し対応しました。また、同様の案件が先月にもありました。両案件ともドクターヘリには乗らずに、救急車で磐田病院に搬送され、治療したということです。その内の1件は、大変症状が重く、呼吸が荒い状態になったということで、学校現場において教頭がエピペンを打ち対応しました。このような緊急の対応について、常に学校現場は考えておかないといけないなど改めて思うところです。

大川小の津波訴訟の判決が出ました。これを受け学校現場においては、通常予想の範囲の中では対応が難しい事が起こり得たときの、対応が望まれると感じました。このことについてはさまざまな意見があります。そこまで学校に要求するのは酷ではないかという意見もありますが、学校現場は緊急の状態を高いレベルにおいて想定や予想をし、想像力を働かせないといけないと思うところです。教育現場は、子どもの命が全てですので、そのところを高いレベルにおいて、これからの緊急事態に備え、学校が確実に対応していかないとはいけません。

アフガニスタンで中村哲医師が、銃弾を受けお亡くなりになりました。これは誠に残念で、いたたまれない気持ちになりましたけれども、先生の功績は本当に偉大なものであり、誰もが知る場所でもあります。心から御冥福をお祈り申し上げます。

武蔵野大学の甲斐先生の話の中に、AI時代における自動車の自動運転についておもしろい話がありました。現在、自動運転の技術がどのくらい進んでいるのかということですが、既に設計した部分の99%が達成され、現在は安全性のチェックを主にやっているとのこと。残りの1%は一体何かというと、モラルや道徳の部分ということでした。例えば衝突を回避しようとするときに、一方には2人いて、一方には1人いる場合にハンドルをどちらに切るか判断する場面があったとします。人数や年齢などのさまざまな要因で判断することが考えられますが、そこを上手く判断できないということです。道徳の問題は理屈で解決できるものではありません。判断はもともと人間としての価値観に依存するものであり、総合的かつ個別、独立的に見ていくことが求められます。人間としての思いやりや、誠実さが道徳性を培うのだと思います。

新しい時代、令和になり元年が今終わろうとしています。学校、図書館、教育支援センター、こども・若者相談センターなど、大きな成果をおさめてくれました。さらに令和2年は笑顔あふれる飛躍の年になりますよう、よろしくお祈りしたいと思います。

3 前回議事録の承認

11月27日定例教育委員会

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

4 教育部長報告

12月定例市議会は本日が最終日となり、全ての議案につきまして承認をいただいたことを報告させていただきます。

入札不祥事事件につきまして最終の本部会議を本日举行しました。市の職員の取り組みとして約50項目を実施していくという報告書と、取り組み方針が採択されました。

今後とも、職員が熱心に信頼回復に向けて頑張っていきますので、どうぞ見守っていただきたいと思います。

<質疑・意見>

なし

5 議事

- ・議案第35号 学校運営協議会委員の任命について

○民生委員、児童委員が改選されたことに伴い、新たな委員の任命を行うものです。

<質疑・意見>

なし

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第35号は原案どおり承認された。

6 報告事項

(1) 地域づくり応援課

○令和2年1月12日に磐田市成人式が行われます。例年どおり市内5会場で磐田市と教育委員会が主催となり開催されます。今年度の対象者は1,650人、男性850名、女性800名で、前年の比較で29人増となっています。午前10時開場、10時30分開式となり、約1時間30分の式典を予定しています。

<質疑・意見>

なし

(2) 幼稚園保育園課

<質疑・意見>

なし

(3) 教育総務課

<質疑・意見>

○施設一体型小中一貫校視察について内容を教えてください。

○浜松市庄内学園への視察を行い、学校の施設等とともに、カリキュラムや、統合に至る経過などを教えていただきました。

○旧校舎を活用した一体型の施設ということで、この形態が今度の学府一体校の施設づくりにおいて、参考になるのではないかということで視察しました。中でも、新校舎と旧校舎の活用方法や、その接続部分をどのように運営しているのかに注目しました。興味深い点として、新校舎と旧校舎の壁がどちらも綺麗でした。これは子ども達の気持ちに配慮した取り組みであるとのことで、このような点も新たな学校づくりには重要なことだと感じました。

(4) 学校給食課

<質疑・意見>

なし

(5) 学校教育課

・令和元年度中学校スポーツ部活動外部指導者の委嘱について

○福田中学校のバスケットボールの外部指導者として新たに1名委嘱するものです。

<質疑・意見>

なし

(6) 中央図書館

○昨年度、大変好評だった新春図書館おみくじを、今年度も図書館4館と、にこっとで実施します。

<質疑・意見>

なし

(7) 文化財課

<質疑・意見>

なし

7 協議事項

なし

8 その他

・学力調査について

○新聞やテレビでご覧いただいた方もいらっしゃるかと思いますが、OECD（経済協力開発機構）において進めているPISA（国際学習到達度調査）という調査があります。この調査に日本も参加していて、報道によると15歳を対象にした読解力、数学的応用力、科学的応用力の3つの分野について、3年に一度調査をしているとのこと。3年前と比べて読解力が8位から15位に下がっていることや、本を読む生徒は読解力が高いことなどが述べられていました。AI社会にあってもやはり、人が活躍する場という意味で、より幸せに生きるためのスキルの一つには、読解力が必要であるとのことでした。文章の意味を理解する、いわゆる推論する力は、全ての教科に通ずるものがあり、基礎、基本になるのではないかと思います。これは高校生に入ってから調査ではありますが、義務教育で学んだ知識や技能が実生活にどれだけ生きているかという意味の調査になると考えていますので、義務教育の9年間の学びの結果の調査ということが言えると思います。学校教育課長に、この結果や報道についてどのように捉えているか伺います。

○文科省はコンピューター関連での長文読解に不慣れを上げていますが、そのとおりであると考えています。その一つの要因として、コンピューター画面による長文に生徒が慣れていないことが挙げられます。国は要因が複合的に影響しているとしつつ分析結果から読解力について、国語科の視点からは理解能力は平均的に高いこと、情報を探し出す能力は、平均点が低下していること、「質と信憑評価すること」や、「矛盾を見つけ対処する」が定義に追加されましたが、これらを問う問題の精度が低いということ、自由記述形式の問題では以前から言われていることですが、自分の考えに根拠を示して説明するという点に課題があります。これらは、新聞報道に出ていたとおりだと考えています。PISAが測定する力は、当然、学習指導要領を求める力と共通するところがあり、それから学習指導要領の求める力を測定しているのが全国学力状況調査ということから、その結果から磐田市の生徒の状況について説明しますと、若干、県より劣るところはありますが、過去3年間を見ても、全国の平均よりは上回っている項目が多いです。磐田市の分析をしたときに、細かい数字になるわけですが、例えば中学校の問題で、話し合いの方向性を捉えて自分の考えを持つという問いがあります。これは自分の考えを持つという問いかけですが、この正答率は全国、県よりも磐田市が上回っている状況にあります。このような状況からも、決して私たちは報道に一喜一憂することなくて、今までやってきたことに自信を持ってやっていけばよいと考えています。磐田市の子どもたちのための学習学力向上リーフレットがありますが、それには、学校や家庭でいわゆる会話をしたり、文章を読んだりする活動を通して得た情報を整理し、自分の考えを話したり、書いたりする時間を確保して下さいとお願いしています。そして読書活動を充実させることも記載しています。これについては、今年度始まったことではなくて、今までもやってきことですので、今後も自信をもって進めていきたいと思っています。

○オーストラリアやニュージーランドなどの小学生もパソコンで宿題をやるのが普通と聞いていますし、算数を解くときも電卓を使っているようです。私たちのように、方程式や筆算を使い解くことはないようです。日本の教育もこのような形になっていくのでしょうか。

○コンピューターを使う利点は、個に応じたレベルにあった段階の学習ができることが、メインの利用方法であると考えています。読解力は普段の文章や本を読むことで育っていく力だと考えています。文科省は今後、1人に1台パソコンを配布し授業を進めることを考えていますので、磐田市においても導入の動きは追い風になると考えています。

○デジタル機器の学校への導入率について、日本は先進国の中で最低だと言われていますが、そういったことに一喜一憂しないで、基本となることをアクティブラーニングという捉え方の中でやっ

ていければ、問題ないということが載っていましたし、私もそう考えています。

○自分の経験からも本を読むことが読解力の育成に繋がると考えています。特に小学校のうちは、国語力が大切で、全ての教科の基礎となるのではないかと考えています。

○PISAなどのいろいろな学力調査があり、その結果について、文部科学省を含め、マスコミが一喜一憂しすぎだと思えます。私たちは一喜一憂することなく、目の前にいる子どもたちの学力を的確に把握し対応することが必要だと考えています。

諸外国の算数の話がありましたが、計算をする過程で大事な事は、頭の中の映像の世界で、5掛ける3はどういう意味を持っているかを思い浮かべることだと考えています。計算機では見えない部分をいかに映像化するかを、子どもに勉強させないといけないと考えています。

○教育は理論的なものと叙情的なものの両方をしっかり区別して習得していく必要があると思えます。これからも両方の視点をバランスよく教育してほしいと思えます。

9 次回教育委員会の日程確認

- ・定例教育委員会

日時：令和2年1月24日（金） 午後4時00分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

10 閉会